

【目的】 小家族化の進展によって、家族の様々な機能のうち、家事、育児等の機能の一部が家庭外で行われるようになり、家族の機能は変化してきている。「国民生活満足度調査」(平成11年度)によると、出生率低下の原因として、(1)経済的な負担が大きい(2)育児のための施設・制度が十分でない(3)晩婚化・非婚化を挙げている者が多い。これらは、家族機能の縮小・低下を表している。今回、高知市において、「児童福祉についての基礎調査」の一環として、乳幼児期にある家庭の母親に質問紙調査を行う機会を得た。乳幼児を育てている母親にとっての保育ニーズを中心に明らかにする事によって、今後の保育を考える一資料とする。

【方法】 1991年11月から1992年1月にかけて、高知市において、市が行う定期検診の折りに質問紙を送付し、記入後の質問紙は添付の返信用封筒で、直接本調査者へ郵送してもらった(回収率82.9%)

【結果】 (1)子どもの誕生後の母親の仕事：継続(24.1%)、一年以上中断、その後再開(13.8%)、一時仕事、現在無し(14.9%)、誕生後なし(41.4%) (2)家事の担当者：「母親がする」が多い家事：夕食作り、食事の後片づけ「母が主で父も協力する」家事：買い物、掃除(3)夫婦関係：「夫は妻の気持ちを理解」(67.8%)「理解していない」(27.5%)「夫に満足」(78.1%)「不満足」(17.2%)：「夫婦は結婚により人間的に豊かになった」(75.2%)「豊かにならない」(20.1%)(4)家族揃って夕食をとる日：0-4日/週(51.1%)、5-7日/週(47.1%)(5)育児不安：「イライラしてしまう」(55.8%)「当たり散らしたくなる」(48.8%)「子育てによって自分も成長」(89.1%)(6)充実してほしいサービスetc.：「夜間・休日診療」(66.1%)「産休明けの優遇措置」(56.9%)「母急病時に預けられる施設」(46.6%)「児童手当制限の撤廃」(45.4%)「デパートの託児施設」(42.0%)